

東京藝術大学アートリエゾンセンター・サロンコンサート

ウィーン今昔物語

司会・解説：ガブリエーレ・プロイ、鳥越けい子

演奏：ウルリーケ・アントン（フルート）、アーミン・エッガー（ギター）

2015年12月15日(火) 19:00 開演

東京藝術大学千住キャンパス スタジオ A

主催：東京藝術大学アートリエゾンセンター

共催：足立区

後援：オーストリア連邦首相府・オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム

BUNDESKANZLERAMT  ÖSTERREICH

FEDERAL CHANCELLERY OF AUSTRIA

1 : M. ジュリアーニ (1781-1829) Mauro GIULIANI

フルートとギターのためのグランドソナタ Op.85

Grand Sonata, op. 85 for flute and guitar

I. Allegro maestoso II. Andante molto sostenuto IV. Allegretto espressivo

2 : G. プロイ (※1965) Gabriele PROY

ソロギターのための「アズライト (藍銅鉱)」

Azurit for solo guitar

3 : F. レバイ (1880-1953) Ferdinand REBAY

フルートとギターのためのソナタ第1番 ホ長調

Sonata No 1 in E major for flute and guitar

I. Allegretto moderato II. Theme and Variations III. Scherzo – Trio

《 休憩 》

4 : G. プロイ (※1965) Gabriele PROY

フルートとギターのための「ターコイズ」

—東日本大震災の犠牲になられた方への記憶として捧ぐ—

Türkis for flute and guitar

5 : F. シューベルト (1797-1828) (編曲 : アントン・ディアベリ)

フルートとギターのためのワルツ

Franz SCHUBERT (transcription by Anton Diabelli)

Walzer for flute and guitar

6 : M. カステルヌオーヴォ＝テデスコ (1895-1968) Mario CASTELNUOVO-TEDESCO

フルートとギターのためのソナチネ Op.205

Sonatina, op. 205 for flute and guitar

I. Allegretto grazioso II. Tempo di Siciliana III. Scherzo – Rondo



© Roland Hille

ガブリエーレ・プロイ (作曲・解説)

1965年、ウィーン生まれ。オーストリアを代表する現代作曲家であり、サウンドスケープコンポジションの分野における先駆者として活躍している。ウィーン国立音楽大学において、作曲(作曲と電子音楽)と音楽教育(ギター)の修士号を優秀な成績で取得。ヨーロッパやオーストラリア、日本、カナダの大学でレクチャーやコンサートを積極的に行うほか、2001年から2013年までヨーロッパのサウンドスケープフォーラムにおいて議長を務める。「2005年日・EU市民交流年」、「日本オーストリア交流年2009」、「2013年欧州文化首都マルセイユ・プロヴァンス」においてはオーストリア政府から作曲の委嘱を受ける。また、2013年には、ライプツィヒ市より「ライプツィヒ・デュアル・アニバーサリー1813-1913-2013」のための作曲の委嘱を受け、ウィーン市音楽賞に輝いた。2014年、ウィーン楽友協会にてコンポーザー・イン・レジデンスを務め、そこで作られたオーケストラ作品はアメリカやウィーン楽友協会ホールにおいて初演されたほか、ヨーロッパをはじめ、トルコやイラン、日本、オーストラリア、カナダ、中南米、アメリカなど多くの国で作品が演奏され成功をおさめている。



© 村上一光

鳥越 けい子（通訳・解説）

東京藝術大学音楽学部（楽理科）卒、同大学院修了。1980年カナダ政府招聘留学、1982年ヨーク大学芸術学部修士課程修了。帰国後、日本各地の音文化の調査研究をおこなう一方、「サウンドスケープ」をテーマに、まちづくり、環境デザインから環境教育に至る各種のプロジェクト、都市をフィールドにしたワークショップ等を展開している。2001年大阪芸術大学論文博士号（芸術文化学）取得。専門は芸術文化学、サウンドスケープ研究、環境美学、音・音楽とまちづくり。現在、青山学院大学総合文化政策学部大学教授。著書に『サウンドスケープ—その思想と実践』（1997年 鹿島出版会 SD選書）、『サウンドスケープの詩学：フィールド篇』（2008年春秋社）。共訳書に、マリー・シェーファー著、『世界の調律—サウンドスケープとはなにか』（1986/2006平凡社）、同『サウンド・エデュケーション』（1992年 春秋社）。



ウルリーケ・アントン（フルート）

グラーツ生まれ。オーストリア、フランス、イギリスで音楽教育を受ける。フランスでは、ベルリオーズ音楽院にてレイモンド・ギオ氏、ブル・ラ・レーヌ国立音楽院にてジャン＝ルー・グレゴワール氏のもとで研鑽を積み、優秀な成績で卒業。その後、マンチェスターに渡り、王立ノーザン音楽大学にてピーター・ロイド氏に師事。マンチェスター大学にて音楽修士号取得し、ウィーン国立音楽大学とウィーン大学にて音楽学の博士号を取得。1994年イル＝ド＝フランス音楽コンクールにて第1位を受賞、その他、国内外の賞を多数受賞。ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、中国でソリストや室内楽奏者として定期的に演奏活動をおこなう。伝統的なフルートのレパートリーに加え、常に現代音楽にも強い関心を持ち、多くの作品を初演。2012年11月、ウィーン楽友協会にて、エルヴィン・シュルホフの「フルート、ピアノのための二重協奏曲」のソリストとして、ウィーン放送交響楽団と共演したほか、エルヴィン・シュルホフの作品を含むCDの録音において、デヴィッド・パリー指揮のイギリス室内管弦楽団と共演を果たしている。



アーミン・エッガー（ギター）

1975年、グラーツ生まれ。グラーツ音楽大学にて、エリザベート・イルムラーおよびハインツ・イルムラーに、ロンドン王立音楽アカデミーにてティモシー・ウォーカーに師事。いずれの大学においても優秀な成績で卒業。ミラノ国際ギターコンクール（イタリア）をはじめ、国内外の数多くのコンクールで受賞。また、1999年には、ロンドンにおいて、世界的に有名なギタリストのジュリアン・ブリームより、英国王立音楽院ジュリアン・ブリーム賞が授与される。ヨーロッパ、アメリカ、アジア各国のコンサートにて、ソリストや室内楽奏者として、ウィーン放送交響楽団、ユードイ・メニューイン指揮によるウィーン室内管弦楽団、台北センチュリー交響楽団など、様々なオーケストラと共演。これまでに室内楽やソロギターのための作品など、多様な作品をレコーディングしており、最近では、アグスティン・バリオスやマリオ・カステルヌオーヴォ＝テデスコなどの作品が収録されたCD『Homage』（アルス・プロダクション）が、世界各地の報道機関から賞賛されている。

現在、グラーツのヨハン・ヨーゼフ・フックス音楽院およびウィーン音楽院で教鞭をとる他、オーストリアやドイツの様々なサマークラスで後進の指導を行っている。

東京藝術大学 アートリエゾンセンター
Tokyo University of the Arts Art Liaison Center

東京都足立区千住 1-25-1
東京藝術大学千住キャンパス

Tel: 050-5525-2744 (平日 11:00-16:00)
Fax: 03-5284-1578
<http://www.geidai.ac.jp/>

Tokyo University of the Arts
Art Liaison Center

東京藝術大学・足立区連携事業